京都市では、施設の運営状況を分かりやすくお伝えする取組を行っています。

京都市青少年科学センターの運営について

当センターは、昭和４４年５月に、本市理科教育の振興に向け、「センター学習」、「教員研修・学校等支援事業」、「市民科学事業」を３つの柱として、子どもたちや市民の皆様に、科学的なものの見方や考え方、科学を活用する心構えなどを体得していただくことを目的として開設し、展示場の公開やプラネタリウムの投映など、様々な取り組みを推進しています。

施設の主な取組（概要）

○　展示場の一般公開

科学に対する興味・関心を高め、身近に自然科学の不思議さや面白さを体験する場として、展示場の一般公開を実施しています。

○　プラネタリウム

令和２年１０月にリニューアルし、光学式とデジタル式の併用により、より鮮明な星空や映像の投映が可能となりました。幼児からシニアまで楽しんでいただける番組の制作を行っています。

○　イベント企画・実施

科学センターの屋上で夜間に天体を観望する「市民天体観望会」や、植物・昆虫の標本の作り方を専門家が指導する「植物・昆虫標本教室」等の、自然科学に触れ合う様々なイベントを企画・実施しています。

施設の利用状況（令和６年度実績）

・科学センターの入館者数　　144,305 人／年

・プラネタリウムの観覧者数　　70,314 人／年

施設運営に関する支出・収入（令和６年度概数）

入館者１人当たりに換算すると、上記の取組などによる年間の支出は１，５６９円（総額 2.2 億円）、入館料などの収入は４３４円（総額 0.62 億円）です。この他、施設を利用しない方も含めた、市民の皆様からの税金を活用し、運営しています。

＜支出：１，５６９円（総額 2.2 億円）＞

光熱水費、清掃費等 195 円	職員人件費 892 円	展示場・プラネタリウム運営費 464 円	設備修繕費 18 円

＜収入：４３４円（総額 0.62 億円）＞

入館料 347 円	寄付金 71 円	実費分 16 円	差額 1,135 円 ⟷ 市民の皆様からの税金を活用

［京都市教育委員会青少年科学センター６４２－１６０１］